

十 編集後記 【酔醒漫筆】 ……一隅を照らす？

比叡山の開祖、伝教大師最澄の著書『山家学生式』に「一隅を照らすこれ則国宝なり」と云う言葉？が載っています。根本中堂の入口にも掲げられている由。原文を見てみよう。国宝何物 宝道心也 有道心人 名為国宝 故古人言 徑寸十枚 非是国宝 照千一隅 此則国宝。古哲又云 能言不能行 国之師也 能行不能言 国之用也 能行能言 国之宝也 三品之内。唯不能言 不能行 為国之賊 乃有道心仏子 西称菩薩 東号君子 悪事向己 好事与也 忘己利他 慈悲之極……(国宝とは何物ぞ 宝とは道心なり 道心ある人を名づけて国宝となす ゆえに古人いわく ‘徑寸十枚、これ国宝にあらず 照千*一隅 これすなわち国宝なり’。古哲またいわく ‘よく言いて行なうことあたわざるは国の師なり よく行ないて言うことあたわざるは国の用なり よく行ないよく言うは国の宝なり 三品のうちただ言うことあたわず行なうことあたわざるを国の賊となす’。すなわち道心あるの仏子 西には菩薩と称し 東には君子と号す 悪事を己に向かえ 好事を他に与え 己を忘れて 他を利するは慈悲の極みなり……) / 何でこんな一文を取り上げたかと云うと、巻間では①「照千一隅」が②「照干一隅」と誤って伝わっているからです。②の干の字では、一隅を照らすとはこれすなわち 国の宝なりと読めますし、①の千という字ですと、一隅をまもりながら千里を照らす者となれと解釈できます。まあ、どちらでもいいようなものですが、出典の最澄の自筆原文では、干(カン)ではなく、千(セン)であることが判明し、さらには、大師の引用する中国の戦国時代の故事によっているのです、この論争に決着がついたそうです。もっと詳しく知りたい方は、史記世家篇田敬仲完世家第十六にあたってみてください。/ 司馬遼太郎は「峠」という小説のなかで最澄のことを「一隅を照らす人間を愛した、尻の穴の小さな小器量者だ」とこき下ろしていますが、そんなことはないでしょう。最後に蛇足ですが、本誌のおもて表紙の下段の一文、一燈照隅 万燈照国 は山家学生式よりヒントを得てなった言葉です。ありがとうございます。

—————06/01/28 (パウワウおじさん)